

週報 第3284回

会 長 渡辺 万寿 副会長 瀧谷 達
幹 事 根尾 玲子 SAA 中田 広宣

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日 12:30 ~ 13:30



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumitsu-rc.org
ホームページ http://izumitsu-rc.org



今週の例会(2025年3月28日) 第3284回

■ プログラム

卓話担当 森口 和信 会員
卓話講師 アンナ. 橘 様
「ドイツ、ミュンヘン生まれの彼女を感じる泉大津」

■ 次週のプログラム

4月4日: クラブフォーラム
道正田 均 クラブ奉仕部門担当理事

■ 今後の予定

・4月11日: 卓話担当 中 透 会員

■ 祝 誕生日

なし

■ 今月のロータリーソング

奉仕の理想

今月の歌

早春賦

春は名のみの	風の寒さや
谷のうぐいす	歌は思えど
時にあらずと	声もたてず
時にあらずと	声もたてず

■ 先週の例会



会長の時間 渡辺 万寿 会長

ポリオ根絶へ

チャンスは突然やってきた。入省後1年もたたないある日の夕方、医系人事を担当する厚生科学課長に突然、呼ばれた。世界保健機関(WHO)にはスイス・ジュネーブの本部以外に、6つの地域事務局がある。アジア・太平洋地域を管轄する西太平洋地域事務局に2つの空席ポストが出たという。一つは課長職(P5)で地域事務局長の秘書官的な仕事をする。もう一つが課長補佐(P4)でポリオの根絶を担当する。どちらに応募するか聞かれた。「考える時間を下さい」と返答すると「今すぐ決めるように」と言われた。

課長職の方が確かに格好はいい。給料も高い。しかし、やりがいのあるのはP4の方だと直感、「ポリオをお願いします」と答えた。もしあるときP5を選択していたら、おそらく2年ほどで日本に帰国することになり、20年間、WHOで働くことはなかったと思う。1990年9月、フィリピンの首都マニラに本部のある西太平洋地域事務局に赴任した。すぐに韓国出身のハン・サンテ地域事務局長から最初の指示が出た。「2000年までにポリオを根絶したい。ドクター尾身には来春、東京で国際会議を開催してほしい」ポリオ根絶にはワクチン購入費など約30億円が必要だった。当時、日本は経済バブルのただ中。アジアナンバー1の経済大国として中国、カンボジア、ラオス、ベトナムなど西太平洋地域の流行国にワクチンを無償で提供しなければならない。東京で会議を開けば相当な資金が集まる。ハン地域事務局長はそう踏んでいたのだろう。国際会議を開催するといってもノウハウも何も持ち合わせない。天然痘根絶事業で指導的役割を果たした蟻田功博士に助言を求めた。

91年4月、東京・市ヶ谷での国際会議の開催に何とかこぎ着けた。世界各国からポリオの専門家や政府関係者が参加してくれるか、当日まで不安だった。会議そのものは成功裏に終わった。しかし、肝心のお金は一切集まらなかった。ポリオ根絶の意義にはみな理解を示したが、要は総論賛成、各論反対である。発展途上国での根絶など荒唐無稽なプロジェクトと映ったようだ。30億円の資金集めに一条の光が差し込んだのは、92年10月に中国・北京で開いた3回目の会議だった。国際ロータリークラブが1億5000万円の資金提供を申し出てくれたのだ。ただ一つ条件があった。中国では患者の多くが4歳以下であることを理由に、予防接種の年齢を5歳以下から4歳以下に引き下げてほしいということだった。

ポリオワクチンの「5歳ルール」はWHO全体の方針だった。中国だけ例外というわけにはいかないと、ジュネーブから来ていた担当官は変更を認めない。

私は彼にトイレに行くふりをして中座するよう促した。その間、「独断」で「引き下げ」了承を取り付けた。このことが後の資金集めの呼び水になった。当時、ワクチンは消耗品ゆえに政府開発援助(ODA)の対象にならないと日本政府は資金援助を渋っていた。「ワクチンは消耗品どころか、その効

果は一生続く」と私がしつこく説明すると、ようやく分かってもらえた。93年8月からの細川護熙政権時代、ポリオワクチンの調達費用として7億円の対中無償資金援助が決まった。マニラ着任から3年弱。やっとポリオ根絶への手ごたえを感じ始めた。

2025.3.18 日本経済新聞 「私の履歴書」⑩ 尾身 茂

国際政治

ポリオ根絶の戦術はとてもシンプルだ。

第一に疑われる症例のサーベイランス(調査監視)。すべて報告してもらい、採取した便のウイルスを検査する。そして「ポリオ接種予防週間」を設け、5歳以下の9割以上に経口ワクチンを投与する。しかし、言うは易く行うは難し。政治的、社会的、文化的な課題が立ちはだかった。

まずは中国の「一人っ子政策」。ワクチン接種のためには予防接種台帳を準備する必要がある。しかし、台帳には第1子のみが登録される。予防接種を受けていない第2子、第3子が中国の患者の9割以上を占めていた。世界保健機関(WHO)が中国に対し「一人っ子政策」という国策を批判するような内政干渉はできない。政治的に微妙な問題だった。ここは中国政府と率直に話し合うしか方法がないと思った。1993年秋、北京に赴き衛生相に直接面会することにした。「一人っ子政策」という言葉は絶対に使わないと決めていた。第2子以降にポリオの患者が集中していること、この問題を解決しないと中国における根絶は難しいと説明、「速やかに対処していただきたい」とお願いした。大臣は静かに聞いていたが「少し時間をください」とのことだった。1、2週間後、中国衛生省から連絡が入った。近く全地方政府の幹部を集めたポリオの会議を北京で開くから参加してほしいという。

9月末、人民大会堂での会議は熱気にあふれていた。私のプレゼンテーションの後、件の衛生相が登場、「あしたからすべての子どもにワクチンを接種してください」と宣言した。第2子、第3子を予防接種台帳に登録してもおとがめなしということを宣言したも同然だ。これで中国の根絶はうまくいくだろうと確信した。この冬、中国は約1週間の特別予防接種期間を設け、全土で約8000万人の子どもにポリオワクチンを投与した。公衆衛生史上、空前絶後の出来事だった。政治的な問題は中国以外にもあった。西太平洋地域事務局のあるフィリピンでは当時、ミンダナオ島で独立を求めたグループとの紛

争が起きており、ワクチン接種どころではなかった。ラモス大統領に直談判し、予防接種のための「休戦協定」を提案。その期間中は双方ともが武器を置き、軍に守られた保健師たちが子どもたちにワクチンを届けた。

96年ごろになると、患者の報告はベトナムとカンボジアの「メコンデルタ」に絞られてきた。川を小舟で移動しながら生活する「浮遊集落」の存在が、衛生上の問題を生みウイルスの撲滅を阻んでいたのだ。少々、手荒な戦略をとった。「浮遊集落」に住む子どもたちを一人も逃さぬよう、接種チームが川の上流と下流の両方から挟み撃ち。両岸にも配置し一網打尽作戦を遂行した。

こうした各国の協力、努力の結果、97年3月19日、カンボジアから報告のあった15カ月の女児を最後に、西太平洋地域からのポリオ患者の症例報告はぴたりとやんだ。ただ、本当に根絶を意味するかどうかはまた別の問題。ゼロの証明は難しい。その後3年間、サーベイランスを継続、疑わしいすべての症例を検査し、ポリオのウイルスは検知されなかった。2000年10月29日、ついに西太平洋地域のポリオ根絶が宣言された。

2025.3.19 日本経済新聞 「私の履歴書」^⑧ 尾身 茂

ポリオ(小児麻痺)の歴史と国際ロータリーの関わり	
1908年	ウィーンの医師がポリオがウイルス感染による病気であることを発表する。
1916年	ニューヨーク市でポリオの大流行が発生し、2000人以上が亡くなる。米国全土では約6000人が死亡し、数千人が麻痺障害となる。
1929年	ポリオによる麻痺で呼吸不全となった患者のために「鉄の肺」と呼ばれる人工呼吸器が発明される。
1955年	ジョナス・ソーク博士開発のワクチンが「安全で効果的であること」が認められる。
1960年	アルバート・セービン博士開発の経口ポリオワクチンが米国政府に認可される。
1978年	国際ロータリー東京大会で3-H補助金が創設され、翌年のフィリピンでの活動に繋がる。
1979年	フィリピンの600万人以上の子どものためにポリオワクチンを購入輸送するプロジェクトがロータリークラブにより開始される。
1985年	国際ロータリーが民間による国際的な公共保健イニシアチブとしては史上初かつ最大規模となる「ポリオプラス」を開始する。
1988年	国際ロータリーと世界保健機関(WHO)が「世界ポリオ撲滅推進活動」(GPEI)を立ち上げる。当時の症例数は125カ国で推定35万件以上。
1994年	「ポリオ撲滅認定のための世界委員会」が南北アメリカ大陸からポリオが撲滅されたことを発表する。
1995年	ポリオの無い国のロータリー会員が世界のポリオ撲滅活動を支援するため、ロータリーが「ポリオプラスパートナー」プログラムを立ち上げる。
2000年	5億5000万人(世界の人口の10分の1近く)という記録的な数の子どもに経口ポリオワクチンが投与される。オーストラリアから中国にわたる西太平洋地域でのポリオ撲滅が宣言される。
2003年	ポリオ撲滅へのロータリーからの寄付総額が5億ドルを超える。常在国の数が6カ国(アフガニスタン・エジプト・インド・ニジェール・ナイジェリア・パキスタン)となる。
2004年	アフリカの23カ国で8000万人の子どもを対象に一斉に予防接種が実施される。アフリカ大陸で最大規模の一斉ポリオ予防接種活動となる。
2006年	ポリオ常在国が4カ国(アフガニスタン・インド・ナイジェリア・パキスタン)となる。
2009年	ポリオ撲滅に対するロータリーからの寄付総額が約8億ドルとなる。ビル&メリンダ・ゲイツ財団がロータリーからポリオ撲滅に2億ドルを寄付することを条件にロータリーに3億5500万ドルの補助金を提供することを発表する。
2011年	ロータリーがポリオ撲滅の新しい啓発キャンペーン「あと少し」を立ち上げる。ロータリーの寄付総額が10億ドルを超える。
2012年	ポリオ常在国が3カ国(アフガニスタン・ナイジェリア・パキスタン)となる。
2020年	世界保健機関(WHO)によりアフリカ大陸における野生株ポリオ根絶宣言がなされる。ポリオ常在国が2カ国(アフガニスタン・パキスタン)となる。
2024年	パレスチナ・ガザ地区で25年ぶりに伝播型ワクチン由来ポリオ感染が確認される。

尾身 茂 (おみ しげる)



2020年4月7日、東京都千代田区にて

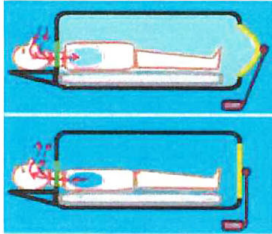
生年月日 | 1949年6月11日(75歳)
出生地 | 日本 東京都中野区
出身校 | 自治医科大学



ジョナス・ソーク博士



アルバート・セービン博士



鉄の肺の動作原理

国際ロータリーは過去35年以上にわたりポリオ根絶活動をロータリーの目標に掲げ、ポリオを世界からなくすという活動を行ってきました。私たちの目標は今、達成まで本当にあと少しのところきています。また、生ワクチンに含まれるウイルスが数百万人に一人程度、本来の毒性を回復してVAPP(ワクチン関連麻痺)を生じさせていることも報告されています。このため、WHOでは、生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンに切り替えすべてのポリオウイルスの根絶を目指しています。

※尾身 茂氏 ポリオ根絶アンバサダーに

※テファニー・A・アーチェック国際ロータリー会長の紹介

※国際ロータリー理事 水野 功氏 のメッセージ

日経新聞 2024年10月19日(土)6面

国際ロータリーは、1985年に世界の子供たちにポリオ予防接種を行う世界的な取り組みを開始し、1988年には世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)を設立しました。GPEIが始まったとき、ポリオは世界中で毎日1000人以上の子供たちを麻痺させました。それ以来、200カ国以上と2,000万人のボランティアの協力により、25億人以上の子どもたちがポリオの予防接種を受けました。

世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)は、世界保健機関(WHO)、国際ロータリー、米国疾病対策センター(CDC)、国連児童基金(UNICEF)、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、Gaviワクチンアライアンスの6つのパートナーとともに、各国政府が主導する官民パートナーシップです。その目標は、世界中のポリオを撲滅することです。

世界保健機関(WHO)

WHOは、世界ポリオ撲滅推進活動の主要な戦略的計画、管理、管理のプロセスを調整しています。WHOは、特にサーベイランスと補足的な予防接種活動の分野において、戦略の実施と影響に関する標準化された情報の体系的な収集、照合、および配布に責任を負っています。

また、WHOは、運用研究と基礎研究の調整、保健省への技術支援と運用支援の提供、補足的な技術支援のための人員の訓練と配置の調整も行っています。

さらに、WHOは、急性弛緩性麻痺(AFP)の認証基準のサーベイランスの確立、リソースの動員、ドナーの調整、アドボカシー、コミュニケーションにおいて主導的な役割を果たしています。WHOは、認証プロセスの事務局として機能し、生物学的封じ込め活動の実施と監視を促進します。

国際ロータリー

国際ロータリーは、世界170カ国以上に120万人の会員を擁する世界初かつ最大の人道支援団体です。1985年に設立されたポリオ・プラス・プログラムを通じて、ロータリーはポリオのない世界というビジョンを初めて打ち出しました。

ロータリーの主な責務は、募金活動、アドボカシー活動、ボランティアの募集です。100万人以上のロータリー会員が、ポリオ撲滅のために時間と個人的な資源をボランティアで提供してきました。また、ロータリー会員は、全国予防接種日には、社会動員や経口ポリオワクチンの子どもへの投与を通じて、貴重な現地支援を提供しています。

ロータリーは、ポリオ撲滅のための闘いに27億ドル以上を寄付し、数え切れないほどのボランティア活動を行ってきたロータリー会員が、ポリオ撲滅のための主要な民間セクターの寄付者です。2007年11月、国際ロータリーはビル&メリンダ・ゲイツとユニークなパートナーシップを締結しました。

幹事報告

根尾 玲子 幹事

なし

委員会報告

なし

■ ビジター

なし

■ 出席報告

会員数43名 出席免除1名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
3/21	33名	10名	—	76.74%
3/7	35名	8名	1名	83.72%

■ メークアップ

榎本(3/6 ワールド大阪ロータリーEクラブ)

■ ニコニコ箱

- ・南出パスト会長、本日は宜しくお願いします(渡辺)
- ・南出和成会員、本日の卓話をどうぞ宜しくお願いします(根尾)
- ・本日は南出様、卓話宜しくお願いいたします(松内)
- ・例会欠席のお詫び(八木(秀))
- ・早退のお詫び(櫻井)

ニコニコ箱合計	17,000円
累計	657,500円



■ お誕生日

白谷 喜世彦 会員(21日)

先週のプログラム



卓話担当 南出 和成 会員

令和7年3月21日ロータリークラブ卓話

- 第九(ベートーベンが作曲した交響曲第9番)鑑賞について。
- 私の仕事現況について
- 日本製ファッションの日(2月2日記念日)について
- 労働安全衛生について
- 事業継続リスクについて
- 中小企業経営について参考となる新聞記事紹介

以上

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基盤として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

= 言動はこれに照らしてから =

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか